



たいじゅ もり
大樹の森

1月号

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/fudomaru/>



思いやりの心

校長 山下 謙一郎

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしく申し上げます。今年の干支は兔。兔は、十二支の他の動物と比べると、ややおとなしい存在であり、穏やかで優しい印象を受けます。一方で、軽やかに跳躍する様子からは、「飛躍」や「向上」を象徴する生き物として昔から親しまれる動物でもあります。私も、今年こそはさらなる「飛躍」を決意して頑張りたいと年の初めに誓いました。

さて、今年是不動丸小学校にとって、いよいよ創立50周年という大きな節目を迎える年でもあります。校内では50周年児童実行委員会が動き出し、どんなお祝いや活動にしていこうか、熱心に話し合っています。大人の考えだと、きっとこんな感じの内容になるのではないかなと思っていたところ、さすが子どもたちの発想は柔軟です。なるほど、と思うようなアイデアが次々に出され、大人の頭の固さを実感させられることがしばしばありました。

これから子どもたちが生き抜いていく「新時代」に必要な力は数多くありますが、私がおその中で大切にしたい力の一つに「思いやりの心」があります。IT化が進み、タブレットやスマホを用いることで業務は随分スマートになり、対面しなくてもできることがかなり増えました。ただ、どんなにIT化が進んでもそれを活用するのは人です。人と人が相手の気持ちや立場を理解しながら考えて行動できる、これは人間がもつ素晴らしい力の一つです。自分の考えや思いを相手に理解してもらおうとする前に、「相手は今どう思っているのだろう」「自分はこう感じているけれど、相手はどう感じているのかな」など、コンピューターでは難しいこの思いやりの心を、大人になる前に育むことができれば、きっとすてきな社会を築いていく礎になっていくと私は思います。もちろんすぐには育ちませんし、身に付きません。子どもたちは悩み、苦しみ、もがきながら、適切な人間関係を経験の中から身に付けていくからです。大人が解決するのではなく、ここを丁寧に支援していくことで、新時代を生き抜く子どもたちに必要な力が育つと私は信じています。